

# ネパール訪問記 ① アジア高校生フォーラムのホストファミリー谷口さんが寄稿

## 親日的で優しく親切な対応に感激

ネパール友の会の桃木範子さん（御坊市塩屋町北塩屋）と、谷口光さん（梶谷口組代表取締役）がこのほど、大地震で被害を受けたネパールを訪問し、現地の子どもたちに文具などをプレゼントした。谷口さんは昨年アジア高校生フォーラムでネパールから来日していたスミット君のホストファミリーで、安否を気にかけて桃木さんと行動を共にした。本紙面では、谷口さんのネパール訪問記を上と下の2回にわたって紹介する。今回は23日付に続く最終回。



ダルマスタリ村で軍手を手渡す谷口さん



トタンぶきの簡易な仮設住宅が並ぶ

翌日、私たちはカトマンズから南西へ80キロほど離れたヘタウタツで街へ行ってきました。山の中のカタカタ道を延々と車を走らせること5時間。以前はもっと道が悪くて7時間ほどか

かっていたらしい。私たちが訪れた施設は、障害者施設でかねてよりネパール友の会の桃木さんが支援していた施設です。今回の地震で施設への影響がなかったというので安心



現地の村の住まいも訪れた

## 友の会の桃木代表とカトマンズ等訪ねる

してあります。この施設のコイラさんは、無償で障害者の子ども達を預かっているそうです。コイラさんの他にボランティアスタッフ9名で30人の障害者をサポートしております。施設内でスタッフがハンドメイドのカバンを作るなどして施設の資金に充てています。今回ネパール友の会から歯ブラシ100本と非常用電池、お手玉などを届けさせて頂きました。この施設には脚の不自由な子ども達もいて車椅子を必要としています。ネパール友の会で次回訪問の際に車椅子

を数台届ける予定にしております。私たちが一行は一度カトマンズへ戻り、今度は、東へ車を走らせました。次なる目的地はドリケルです。ドリケルはネパール友の会の桃木さんが里親となつて

支援している子どもが住む町です。彼の家は、今回の地震で倒壊してしまつたそうです。しかし本人は無事で元気な顔を見ることができました。彼は現在8年生だそうですが、ネパールでは10年生まであります。将来は、日本語学校へ行き日本語を勉強して里親である桃木さんに恩返しをしたいと語っていました。これから大変でしょうがしっかりと勉強して頂きたいと思つています。ドリケルの帰りに気になつてきたチャリング村に立ち寄りまして。以前より桃木さんたちがこの村の学校に支援しており、村長さんの息子さんとも知り合ひでした。地震の後、連絡をするが、返事はなく安否が心配でした。立ち寄りしてみると、村長さんの家は、倒壊して、瓦礫の山となつていました。周辺の家も倒壊しており、近くの学校に仮住まいしております。家は倒壊してしまいました。が、彼らが無事でいることが確認でき安心しました。今回の小学校に避難している彼らに私からはカップ麺を50個、桃木さんからは、カローリーメート20個と非常用電池をお届けさ

せて頂きました。最終ミッションで私たちは、カトマンズで日本語学校をやつているラジェン先生を訪ねました。彼は、いつも私たちの案内をしてくれていたラジャンさんのお兄さんであります。彼は日本語によつて自分の人生が変わつたと話してました。だから日本語を忘れたくない、いもつとみんなに日本語を勉強して欲しいとボランティアで日本語を教えることにしました。私たちが今回の地震に対し私たちができる支援はないかと相談しました。ちょうど彼の知り合ひが住む村でほぼ全滅して困つてるところがあるというので、彼の案内でカトマンズ市内から北へ

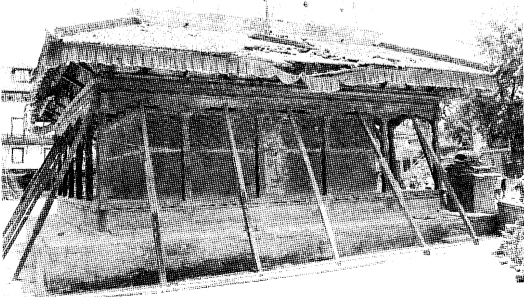
## 軍手等の物資をプレゼント

ンティアで日本語を教えることになりました。私たちが今回の地震に対し私たちができる支援はないかと相談しました。ちょうど彼の知り合ひが住む村でほぼ全滅して困つてるところがあるというので、彼の案内でカトマンズ市内から北へ

た。今、この村で必要なものを訪ねると、この生活も長期化するだろうから床に敷くシートや衣料品や毛布などの生活必需品が必要と仰つてました。また、ゴミが街に散乱するためゴミ箱も必要とのことでした。今回の視察を受け次回ネパール友の会での訪問の際、12月頃に生活に必要な物資を届ける予定であります。今回、ネパールのほんの一部しか見れ

ら日本語を忘れたくない、いもつとみんなに日本語を勉強して欲しいとボランティアで日本語を教えることにしました。私たちが今回の地震に対し私たちができる支援はないかと相談しました。ちょうど彼の知り合ひが住む村でほぼ全滅して困つてるところがあるというので、彼の案内でカトマンズ市内から北へ

た。今、この村で必要なものを訪ねると、この生活も長期化するだろうから床に敷くシートや衣料品や毛布などの生活必需品が必要と仰つてました。また、ゴミが街に散乱するためゴミ箱も必要とのことでした。今回の視察を受け次回ネパール友の会での訪問の際、12月頃に生活に必要な物資を届ける予定であります。今回、ネパールのほんの一部しか見れ



倒壊の危険がある建物に応急処置

## 倒壊の危険ある建物が多数

を亡くしている。この地震が夜中に起きていたらほぼ全員が亡くなつていてもおかしくないと言われている。村の建物の9割近くが倒壊しない形は残つても倒壊の危険のある建物で住めない状態になっていきます。そんな中、この村の若者が1日でも早い復興を願ひ集まり瓦礫撤去に取組んだため、今回訪問では瓦礫はほぼ片付いて仮設住宅で暮らす様子を見ることができました。仮設住宅とは、言つても写真にある半円のトタン葺の小屋です。内部は何もなく土の上に敷物を敷いて寝ている状態。この村の若者たちは、早く村の再建計画を立てて復興させたいと努力しておりま

## 支援している障害者施設も幸い無事



桃木さんがかねてから支援している障害者施設を訪問。施設にはお手玉などをプレゼントした。

